

令和7年第17回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年7月4日（金曜日）			開会	9:55		会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	11:28					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席	
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席				
委員外の出席								合計	0名	
事務局職員	局長		入倉 伸顕	主幹		木幡 友哉		合計	2名	
傍聴者数	一般		0名	報道関係者		0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者			会議経過
委員長	12番	松原	9:55 開会
			出席委員8名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日 開会挨拶
委員長	12番	松原	議事1 北海道町村議会議長会及び白老町議会行政視察のまとめ
			・初めに北海道町村議会議長会の視察に関する意見をまとめる。
委員	13番	中村	・定数にしても報酬にしても住民理解が必要。住民の意見をどう受けて決めていくかが重要で、この特別委員会を公開する話しもあったが、新たな試みとして実施できればいい。
			・定数に関して、政策立案機能を保つための人数がどの程度かという考え方で自分の中で整理された。また、財政規模で比較する場合は、経常収支比率を見る必要がある。
委員	9番	小椋	報酬に関しては、原価方式に対しては否定的だったが、とはいえ算定根拠は必要になる。生活給としても考えていければいいかと感じた。
			政務活動費については、別海町議会としてやるかやらないかの判断をするだけだと思った。
			フォーラムの開催という話があったが、急に実施しても参加が見込めないことから、まずは、委員会を公開するといったことも手段の一つ。
			地域が広い別海町では1か所でフォーラムを行うより、地域めぐり懇談会を工夫して実施していくほうがいいのではないかと感じたところ。
委員	2番	吉田	・報酬に関しては、原価方式に反対とのことだったが、それ以外で町民を納得されられる根拠が示せるのか分からない。
			政務活動費は、別海町としてどうするのか。
			フォーラムの件については、内容が伴わないとあまり意味がないので、広報広聴活動の中で一つずつ積み上げていければいいと思った。
委員	1番	市川	・定数と報酬に関して答え合わせすることができた。
			投票率が低いことが問題であり、主権者教育の強化を図っていく必要があると感じた。
			広報・広聴活動に力を入れ、多くの人の心に響く紙面づくりを行い、おいおい実施するかもしれないフォーラムでの活発な議論につなげていきたい。
委員	3番	高橋	・定数・報酬に関しては、議会の中だけで決めたと思われぬようにすべきとの言葉が印象的だった。やはり住民とともに行う必要がある。
			議会モニターの活用として、特別委員会に議会モニターを呼ぶなど、住民と関係する場を増やす必要がある。
			また、報酬に関しては、管内で調整して足並みを揃え、各々議長から町長に

令和7年第17回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員 11番 今西	依頼してみてもどうかといった話が興味深かった。 ・講師には、全道のあらゆる事情を把握した上で、様々な提案をいただいたがあとはその情報の中から、別海町としてどれを選択するかによると思う。 政務活動費については、個人的には否定的な部分もあるので、判断は全体の流れに委ねたい。
副委員長 8番 田村	・定数がどんどん減っている要因は、行政経費の削減と、投票率の低さが影響していると話があったが、この対策には工夫が必要。
	町民アンケートを取る場合、世帯ではなく、全町民を対象にして行う必要がある。パブリックコメントのような顔の見えない方法ではなく、別な手段で町民の意見を求めることを考えなければならない。 報酬の算定については、原価方式が否定されたが、原価方式以外で報酬を決定している議会のうち、近隣市町村との比較により決定している議会が42%となっており、外部に根拠を委ねている。そうすると、別海町は報酬が高いほうになるので、減額とするほかないため、原価方式に将来への期待値を加味する方法で算定するのがいいと考える。 政務活動費は全道で18町村が導入しているが、議員活動調べで政務活動費の費用の報告も求めているため、それを分析して判断したい。
委員長 12番 松原	・次に白老町議会の視察に関する意見をまとめる。
委員 13番 中村	・若い議会であった。
	常任委員会のやり方として、住民に入り込み、住民参加型として実施していたのは関心したが、我々がやろうとしていることと合致するかはよく考える必要がある。ただし、我々は広聴活動の中でやろうとしていることではあるので方向性は間違っていないということは確認できた。
委員 9番 小椋	・委員会による広聴活動を今後実現したいということに刺激を受けた。
	広報広聴常任委員会において、分科会を作って広聴活動を行ったがうまくいかず、委員会で行うようになったということで、苦労しているのが見えたが、20年以上の議会活性化活動の中で、常に課題に合わせて改革を行ってこれているのが素晴らしいと思った。 ただし、議会活動を一生懸命やっても、投票率は別海町より低い事実があり、議会活性化だけでは投票率向上にはつながらないと考えられるため、やはり主権者教育が大事だと思った。 また、定例会の反省会を町の理事者で行っているといった話に驚いた。別海町ではすぐにはできそうにないが、いい話である。 通年議会は会議はやりやすいが、不定期開催で議員を選ぶ制度である。議会活性化のためには、今後、通年議会を改めて議論する必要があると感じた。 白老町では政務活動旅費という制度を取っていた。政務活動費は、旅費に絞れば難しくなく、議員個々の政務活動に有効ではないかと考える。 会派について少し説明をいただいたが、会派の人数など、パワーバランスによって方針を決定できることが分かった。議論は煮詰まっていなくても、人数が揃えば決断できる体制となる事実を確認できた。 政策研究会というものを立ち上げていたのが魅力的だった。会議体としての位置づけなど、ルールのどうかは確認する必要があるが、やれるのであれば別海町も導入について研究していく必要があるのではないか。
委員 2番 吉田	・これから別海町がやろうとしていることを、何年も前から試行錯誤して続け

令和7年第17回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		られていることがわかった。白老町の実績から、別海で有効な方法を選んで試していけばいい。 移動委員会が実現できていることが素晴らしいと思った。行政が対応してくれていることがすごい。
委員	1番	市川
		・定数、報酬等については他の委員が話してくれているので、白老町議会から感じた印象を述べたい。 まずは、別海町との違いは、議会と役場の垣根が低いこと。定例会後の反省会などは地方議会だからできるのかもしれないが、チェック機能を果たすためには、シャットアウトしたほうがいいのか、考えさせられるところ。 また、若手議員が議会運営委員長となっており、議会内がいい関係に見えた。議長が議会運営委員長に託している様子がうかがえ、若手を育てる関係性が構築されているように感じた。
委員	3番	高橋
		・町民にオープンな議会だと思った。 また、通年議会のよしあしが分かった。 傍聴規則で傍聴の際の手続きや制限を一切なしとしているのが革新的。名簿に記入して入る必要がないこともそうだが、ビデオ撮影すらも可能としていることはすごい。町民が見やすい体制がとられている。
委員	11番	今西
		・若い世代に経験を引き継ぐ方法を考えなければならないと思った。 会派があって、主義主張が合致した議員に投票する流れは別海町にはないので、地域との関わりを強め、地域に出向く活動をもっと増やしていければ今後につながると思う。 町側との意見交換は必要ではないか。議会運営委員会で議論できるように投げかけてほしい。
副委員長	8番	田村
		・人口は別海町と近いが、高齢化率は高い。しかし、議員年齢が若いことから、若いやる気のある人が多いと思った。 移動委員会は、環境が整うのであれば別海町でも実施したいと考える。 議員で構成する政策研究会は、議員個々の資質向上に有効だと感じた。 政務活動旅費という考え方は有効だと思う。 答弁書配付がされていたり、町側との距離が近い。新鮮で斬新な取組を多々行っている議会だと感じた。
委員	9番	小椋
		・副委員長からも話があったが、政策研究会について研究する必要があるのではないかと考えている。 特別委員会を組織できる規定はあるが、特別委員会では重いと考えるので、それよりももっと軽く、例えば、病院の医師不足に対してどういう改善策が必要かを、病院経営の仕組みから勉強していきましょうといったように、細かい案件に対して、アプローチする手段として非常に魅力的に思えたので、この制度に関しては検討していきたいと思っている。
副委員長	8番	田村
		・特別委員会的な組織ではあるが、イメージとしては柔らかく感じるのでもいいと思う。
委員	11番	今西
		・政策研究会を議会運営委員会で協議をしてもらうのであれば、町理事者との反省会についても併せて協議してもらいたいと考える。
委員長	12番	松原
		・当委員会の報告書で提案するか、議会運営委員会で協議するか、考えてもいいと思うが、どういった方法が有効か。
事務局	主幹	木幡
		・今回のこの報告書も公式な書類の一つとなるので、今回の報告書の内容を受

令和7年第17回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			けて議会運営委員会で動くということは可能と考える。 ・事務局に政策研究会の実態を調べてもらって、もう少し具体的にしてから提案したほうがいいかもしれない。 ・政務活動費の導入ではなく、政務活動旅費の導入という考えについても検討の必要があるか。 例えば、根室市は政務活動費と設けているが、実質年に一度の北方領土返還運動へ参加するための旅費として活用している。 旅費として活用する場面が多いのであれば初めから旅費に限定する考え方であれば分かりやすい。 ・政務活動費の問題となりそうな点は、書籍や物品などについて、使途が不明な費用が計上されるおそれがあること。その点、旅費のみであれば、使途が明確で、領収書とレポートの提出があれば確認できるので整理もしやすいと考える。 政策研究会との相性もいい。政策研究会のメンバーが政策研究のために現地研究を行うときに活用できる。 ・政務活動旅費の算定方法等に係る自由討議。 ・本日出された意見を基に事務局で報告書の案を作成し、ラインワークスでお見せするので、次回会議時に意見をいただきたい。
委員	9番	小椋	
委員長	12番	松原	
委員	9番	小椋	
事務局	主幹	木幡	
委員	一同		
委員長	12番	松原	11:05 休憩
委員長	12番	松原	11:13 再開
委員長	12番	松原	・その他として事務局から報告がある。 ・次回以降のスケジュールについて事務局案を作成したので、意見等いただきたい。
事務局	主幹	木幡	①政務活動費の考え方を9月末までに決定。 ②日常議員活動調べを集計し、報酬額の考え方を9月末までに決定。 なお、①と②は並行して進める。 ③全体報告書の素案を10月末までに作成。 ④地域めぐり懇談会やその他の方法による町民意見の聴取を年内に終える。 ⑤最終報告書を取りまとめ、議員間討議等による議会内周知を2月中旬までに行う。 ⑥最終報告を3月定例会で行う。 なお、特別職報酬等審議会への審議要請を行うタイミングについては、最終報告後から4月末までの間で開催できるよう現在町長部局と調整中。 また、関係条例等の改正については、令和8年6月定例会での改正を予定しているところだが、報酬に関する条例については、審議会の答申が出なければ改正できないこと、及び、条例を管理する部署が経営管理部となることから、タイミングがずれ込むことも考えられる。 いずれにしても、改正条例等は議員改選後からの適用とする予定。 ・③と④の間に、全体報告書が素案の段階で、議会内周知を入れたい。 ・承知した。 ・ほかに何かあるか。 ・なし。 ・次回開催日は7月28日13時としたい。 ・異議なし。
委員	9番	小椋	
事務局	主幹	木幡	
委員長	12番	松原	
委員	一同		
委員長	12番	松原	
委員	一同		

令和7年第17回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長	12番	松原	閉会挨拶
委員長	12番	松原	11:28 閉会